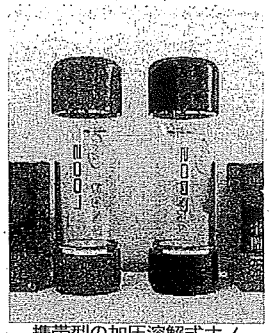
携帯型で水素水生成

NTCドリームマックスがポット　3分で濃度1ppm超



携帯型の加圧溶解式ナノバブル水素水生成ポット

【水戸】NTCドリームマックス（東京都中央区、皆川浩章社長、03・3668・2861）、東洋技研工業（茨城県日立市、小野収司社長、0294・24・6517）、S.P.エンジニアリング（同、泉富栄社長、0294・24・7555）の3社は、携帯型の加圧溶解式ナノバブル水素水生成ポット「Bispo」を開発し、茨城県内を中心に販売を始めた。容量300ミリリットルで、水素濃度1・0ppmを超える水素水を3―5分間でつくれる。価格は本体1万2000円（消費税抜き）、水素発生キット3600円（同）。初年度12万本、売上高約14億円を目指す。東洋技研が本体製造、S.P.エンジが薬剤製造を手がける。販売はNTCドリームとS.P.エンジが担当する。

水素発生剤に水を加えて発生した水素ガスを、ポット底部から噴射し、ポット内の水溶液に溶解させる仕組み。水素ガスはポット上部の空間に高圧高濃度で蓄積されるため、これを振り混ぜると常圧下で超過飽和水素濃度になる。

水素ガスが溶存しても味や香りは変化しないため、コーヒーやお茶、スポーツドリンクなどに使える。

SPE '14.3.26 泉